令和９年度広島大学文学部編入学試験　解答又は解答例　出題の意図等

分　野	倫理学

問Ⅰ

（１）　アパテイア
（２）　『神学大全』
（３）　J.S.ミル（ミルやジョン・スチュワート・ミルなどの表記も可）
（４）　現存在（ダーザインなどの表記も可）
（５）　レヴィナス（エマニュエル・レヴィナスというフルネーム表記なども可）
（６）　原初状態
（７）　荘子
（８）　修証一等
（９）　インフォームド・コンセント
（１０）レオポルド（アルド・レオポルドというフルネーム表記なども可）

【出題の意図】　倫理学の基礎知識を確認する目的での出題である。

問Ⅱ

（1）解答例：過剰と不足という二つの極端の間にある，理性によって定められた適切なあり方（徳）。単なる「真ん中」や「平均」ではなく，その人や状況に応じて理性が判断した適切なあり方である。

（2）解答例：苦しみの存在（苦諦），その原因（集諦），苦しみの消滅（滅諦），そして苦しみをなくす実践の道（道諦）を示した仏教の根本教義。

（3）解答例：欲望や外部の命令に左右されず，理性によって自ら道徳法則を立て，その法則に従って行為することができること。

（4）解答例：人間には生まれながらに決まった本性や目的はなく，まず存在し，その後の選択や行為によって自らのあり方を作り上げていくこと。

（5）解答例：人間を他者や社会から切り離された独立した個人（個人主義的・実体的存在者）として捉えるという点。

【出題の意図】　倫理学の基礎知識と「説明する力」を確認する目的での出題である。

令和９年度広島大学文学部編入学試験　解答又は解答例　出題の意図等

分　野	倫理学

問Ⅲ

（１）解答例：
『論語』。孔子とその弟子たちの言行をまとめた記録であり，簡潔な対話で儒教の考え方が示されている。儒教における最も重要な古典の一つであり，四書の一つとして位置づけられる。

【出題の意図】
基礎的な英語読解力，および儒教に関する基礎知識を確認する目的での出題である。

（２）解答例：
プラトンによれば，人間は肉体という限界のために，純粋な知識に到達することはできない。それゆえ哲学者は純粋な知識を得るために，なるべく肉体を離れて魂そのもので物事を観察しなければならない。この哲学の方法は肉体と魂を切り離そうとする試みであり，死は肉体と魂の分離であるため，哲学は死の練習と言われる。

【出題の意図】
基礎的な英語読解力，およびプラトン哲学に関する基礎知識を確認する目的での出題である。

（３）
【出題の意図】
本文を参照して，儒教，ギリシャ哲学，キリスト教，精神分析学（フロイト），実存主義における「死」の捉え方を理解し，一定の論評をおこなえているかを確認する目的での出題である。

令和９年度広島大学文学部編入学試験　解答又は解答例　出題の意図等

分　野	東洋史学

問Ⅰ

・出題の意図

基本的な英語知識があるか、また東洋史に関連した英語論文を読解する能力があるかを確認する設問。

・解答例

さらに 1240 年から 1470 の間に、6 つの地域すべての政体が制度的・経済的問題が複合的に作用して崩壊したが、なかでも数世紀にわたる農業･商業の拡大による不安定化の影響が最も有力であった。なかでも初期の制度的不備は、キーウの諸侯間の紛争、ヴァロワ朝の宗主権に対するイングランドの挑戦、及びパガン朝・アンコール朝・大越・足利幕府における地方への権限移譲において、痛ましいほどに明確になった。東南アジアとヨーロッパでは、1250 年から 1300 年以降の中世温暖期の衰えとモンゴルの行動がこれらの問題をさらに深刻にした。モンゴルによる混乱は、軍事的攻撃を通じた直接的なものと、タイ人の移住、商業の変化、及びそれ以前の中世の繁栄期に開拓された商業ルートに沿って拡大した黒死病の流行による間接的なものの両方があった。

問Ⅱ

・出題の意図

長期的なスパンで歴史の展開を理解しているか，それを論理的に説明できるか，及び文章の正確な記述と表現力を問う設問である。紀元前 3 世紀から 17 世紀に至る，モンゴル高原の遊牧民とその国家，すなわち匈奴・鮮卑・柔然・テュルク（突厥）・ウイグル・キタイ（契丹）・モンゴル・オイラトの変遷の歴史とそれぞれの特徴について，体系的に説明することが求められる。そして，戦国時代末期から清初に至るまでの各時代の中国における王朝との関係についても，言及できるかどうかもポイントとなる。

・解答例

モンゴル高原では，紀元前 3 世紀の匈奴によるモンゴル高原初の広域統合国家の形成から 17 世紀のモンゴル諸部の清朝への服属に至るまで，遊牧民を主体とする国家が興亡した。これら遊牧国家の特徴は，草原の騎馬遊牧を背景とする高い機動力・軍事力と，中国王朝との戦争・外交・交易を通じた相互作用にある。

最初の大規模な遊牧国家である匈奴は，紀元前 209 年頃に冒頓単于によって築かれた。匈奴は前漢初期には優位に立ち，公主の降嫁や絹・食糧の供与を伴う和親を漢に受け入れさせた。その後，武帝の遠征などによってその勢力は後退し，1 世紀には南北に分裂した。南匈奴は後漢に服属して長城以南に移住し，北匈奴や鮮卑との戦いに従事した。

2 世紀には鮮卑がモンゴル高原の覇権を握るようになり，4～5 世紀には匈奴や鮮卑などの遊牧民が華北で多くの王朝を建てた。なかでも鮮卑拓跋部の建てた北魏は 5 世紀に華北を再統一し，その君主は中国の皇帝号とともに，遊牧世界の君主号であるカガン号を称した。北魏以来の北朝では，遊牧世界の軍事的伝統と中国的統治制度が組み合わされ，それらの政治的・社会的基盤の上に隋唐帝国が形成された。

5～6 世紀には柔然がモンゴル高原を支配し，「カガン」の称号を君主号として採用し，その伝統は後の遊牧国家に継承されることになる。6 世紀半ばに柔然を滅ぼした突厥はモンゴル高原から中央アジアに及ぶ大帝国を築き，北朝・隋や初期の唐に大きな影響力を及ぼしたが，東西分裂後の東突厥は唐に服属した。その後はウイグルが台頭し，安史の乱の鎮圧に援軍を送るなど，唐に対して優位な関係を結んだ。モンゴル高原で初めて本格的な都城を建設したことも特筆される。

ウイグルの崩壊後，モンゴルには統一勢力がなく，モンゴル高原東南部や遼西を拠点とする契丹は，後晋や北宋に対して優位に立ち，1004 年の澶淵の盟によって北宋との安定した外交関係を築くとともに，モンゴル高原中央部にも勢力を伸ばした。契丹を滅ぼした女真の金の時代もモンゴルには統一勢力が存在しない状況が続くが，　13 世紀初頭にはチンギス・カンがモンゴルを統一してモンゴル帝国

令和９年度広島大学文学部編入学試験　解答又は解答例　出題の意図等

分　野	東洋史学

を建設した。その版図はユーラシアの大部分に及び，孫のクビライの時には南宋を滅ぼして中国全土を支配した。

明が中国を統一し，モンゴルの支配層をモンゴル高原に撤退させると，モンゴルの勢力は明の攻撃を受けて弱体化した。15 世紀前半にはオイラトが覇権を握った後，15 世紀末から 16 世紀初頭にかけてダヤン・ハーンがモンゴルを再統一した。オイラトやモンゴルは，明の北辺を圧迫したが，明はモンゴルとの交易を認めることで北辺の安定を図った。17 世紀になると，モンゴル諸部は相次いで後金・清に服属することとなった。

問Ⅲ

・出題の意図

東洋史において研究を遂行する上で必要な基礎知識を身に着けているかを確認する設問。

・解答例

（１）北宋の司馬光が編纂した，中国を代表する歴史書の一つ。戦国時代の始まりから五代末までを，編年体によって書かれた通史で，大義名分論・正統論の立場から記述され，皇帝の治政の参考ともされ，後世に幅広く読まれた。

（２）遊牧国家の君主を輪番で警護する制度。その人員はケシクテンと呼ばれ，遊牧君主の親衛隊であると同時に，直属軍の精鋭部隊であった。さらに，遊牧君主の日常生活を担う家政機関や将来の国政を担う幹部を養成する機関としての側面も有し，君主の側近集団としての性格も備えていた。

（３）孫文が提唱した中国革命の基本理論。民族主義・民権主義・民生主義から成り，異民族王朝としての清朝の打倒と漢民族の独立，主権在民の共和国の建設，近代化と社会福祉及び独占資本の制限や土地改革などによる経済的な不平等と社会問題の改善を，それぞれ主張した。民族主義については，辛亥革命後，領土の分裂・分割を回避するため，漢民族と少数民族の平等を謳う五族共和へと展開した。

（４）13 世紀から 14 世紀にかけてベトナム北部を支配した王朝。13 世紀後半に 3 度にわたるモンゴル軍の侵攻を撃退した。統治面では上皇制や皇族内での近親婚の多さなどが特徴として挙げられる。

（５）中国哲学の研究者である諸橋轍次を代表として編纂された日本語による代表的な漢和辞典。出版元は大修館書店。初版は 1960 年に完結（全 13 巻）。親字のみならず語句（熟語）にも詳細な解説や出典が記載されているという特徴があり、以降の漢和辞典の編纂にも大きな影響を与えている。

（６）17 世紀初頭にチベット仏教の活仏が定住したことにより、その門前町として成立し、外モンゴルでほとんど唯一の都市として発展した。現在のモンゴル国の首都であり、同国の人口の半数近くが居住する政治・経済の中心地。

令和９年度広島大学文学部編入学試験　解答又は解答例　出題の意図等

分　野	地理学

問Ⅰ

（１）世界の多くの地域では，自動車，バス，オートバイ，その他の乗り物を利用した移動が，人々が自分たちの暮らす地域内の場所と場所との間を移動する主要な方法となっている。幹線道路を走行する際，人々は，絶えず変化する眺めの中で，さまざまな地形が視野を通り過ぎていく視覚的なパノラマを目にする。実際，これは多くのドライバーが自動車での移動を楽しいと感じる一つの側面である。Appleyard らは 1964 年に，「道路からの眺めは，空間と動き，光と質感が，すべて新たなスケールで展開する劇的な光景となりうる」と述べている。渋滞の中にいることに何の楽しみも感じない都市の通勤者にとってさえ，自動車による移動は，依然として自然景観を見る最も一般的な方法の一つである。

（２）自動車で移動する人々は，音や匂いなどの感覚からおおむね隔てられているため，主として視覚によって景観を認識する。また，道路から見える景観は，人々が空間を認識し，自分の位置や方向を把握するあり方にも影響を及ぼす。

（３）人々のメンタルマップには，自分が実際に見たり，かかわったりしたことのある地物について，その大きさや目立ちやすさ，出現頻度を実際以上に大きく捉える傾向があるためである。

【問Ⅰの出題意図】

地理学に関する英文を正確に読み取り，日本語で適切に表現する能力をみるとともに，自動車による移動と景観認識との関係について本文の論旨を把握し，的確に説明する能力を問う。

問Ⅱ

（１）伊勢湾

（２）直線距離　5,025m

計算式　20.1cm×25,000＝502,500 cm ＝ 5,025 m（5.025 km）

（３）堤防に囲まれた標高の低い水田が広がる。堤防付近にある三角点や水準点の標高値，集落の分布などから，周囲の堤防が内部の低地を取り囲んでいる様子が確認できる。また，堤防の周囲には水路や水域がみられ，水門も確認できる。これらのことから，櫛田川河口付近に広がっていた干潟を干拓して形成された地域と考えられる。「新田」という地名からは，近世に開発された可能性が推定される。

（４）いずれの集落も帯状に延び，周囲には水田が広がっていることから，微高地上に立地した集落であると考えられる。集落の延びる方向は，現在の河川の流下方向とはおおむね直交している。一方，これらの帯状集落は，現在の海岸線とは必ずしも平行していない。しかし，集落の海側には低平な水田が卓越し，その一部は堤防に囲まれていることから，干拓によって形成された土地が広がっていると考えられる。したがって，現在の海岸線は干拓によって海側へ前進しており，集落の延びる方向と現在の海岸線との関係だけから，微高地の成因を判断することはできない。また，松崎浦町から松ヶ島町，大平尾町へと続く一連の集落より内陸側では，地表面が緩やかに海側へ傾斜している様子が読み取れる。これらを踏まえると，一連の帯状集落が立地する微高地は，かつての三角州前面に発達した浜堤である可能性が考えられる。

令和９年度広島大学文学部編入学試験　解答又は解答例　出題の意図等

分　野	地理学

【問Ⅱの出題意図】

（１）日本列島の主要な地名に関する知識を問う。
（２）地図の基本的な機能を理解し，地図を用いた基本的な計算を行う能力を測る。
（３）地形図を読み取る基礎的な能力と，地図から地域の変遷を読み取る基礎的な能力を測る。
（４）地形図から地形や地物を読み取る能力と，多様な地表の情報をもとに，地形の発達過程や地表の変遷を推定し，表現する能力を測る。

問Ⅲ

（１）　Ａ　インターネット関連サービス業
　　Ｂ　社会福祉・介護事業
　　Ｃ　研究開発事業

理由　まず図１のＡは，従業員分布の東京都への顕著な集中傾向が認められるため，コンテンツ産業に特徴的な立地傾向を示すインターネット関連サービス業であると判断できる。またＢは，特定地域への集中傾向は認められず，地方圏にもまんべんなく従業員が分布している。よって，地方圏の高齢化による介護サービス事業の普及などを考慮すると，Ｂは社会福祉・介護事業であると判断できる。そしてＣは，東京都や大阪府など大都市への集中も若干認められるが，むしろ茨城県や神奈川県といった特定地域への集中傾向が目を引く。これより，Ｃは研究機関が多く集積するつくば市などに従業員分布がみられる研究開発事業であると判断できる。

（２）　ア　木材の輸入量
　　イ　木材の伐採量
　　ウ　木材の輸出量

理由　まず表１のうち目を引くのが，アにおける中国のシェアの突出した高さである。中国は近年，経済成長に伴って建材としての木材需要が急増していることに加え，政府が環境政策に力を入れており森林伐採を制限しているため，海外から大量の木材を輸入する必要に迫られている。よってアは木材の輸入量であると判断できる。またイは，BRICs と呼ばれる新興国の国々が含まれていることから，経済発展に伴う木材需要が高く，ゆえに伐採量が伸びている国々であるといえる。よってイが，木材の伐採量であると判断できる。そしてウは，ロシアやカナダを始めとした冷帯林を多く有する国々によって占められる。こうした冷帯林では用材に適した針葉樹の割合が高いため，ウが木材の輸出量であると判断できる。

（３）１．ブラジル，アルゼンチン，インド，アメリカ合衆国のうちいずれか２カ国
　　２．遺伝子組み換え作物は，一般的に，病害虫や除草剤などに対する強い耐性をもつため，収穫量が増えるなど生産性を高める効果があるとされる。よって食料増産を目指す地域では，それを導入する意義は大きいといえる。
　　３．遺伝子組み換え作物は，その栽培において灌漑施設や農薬・肥料などを一定程度は必要とするため，全ての所得層の農家に普及させることは難しい。また遺伝子組み換え作物が生態系や食の安全性に与える影響が未解明なため，その普及に懐疑的な考えをもつ消費者が少なくないことも，普及における課題であるといえる。

（４）・穀物メジャー
　　穀物のグローバルな流通を支配する，多国籍アグリビジネスのことを指し，その多くがアメリカ合衆国を本拠地としている。多くの穀物メジャーは自らは生産を行わず，農家から穀物を買い付け，それを多くの国々に輸出するなど，農家から消費者までの穀物流通に大きな影響を及ぼしている。

令和９年度広島大学文学部編入学試験　解答又は解答例　出題の意図等

分　野	地理学

・ファブレス企業
　変化の激しい市場に対応するため，多大な設備投資を必要とする生産部門を切り離し，企画や開発に特化した企業のことを指す。一般的に，それらの企業は製品を製造するための自社工場をもたない。
・インナーシティ問題
　1970～1980 年代にかけて欧米の大都市でみられた現象であり，中・高所得層が都市の郊外に転出する一方で，失業者を含む低所得層が都心周辺部に滞留し，スラム化して治安が悪化した問題のことを指す。特に，アメリカの大都市圏においては，この問題が顕著にみられた。
・人口転換
　一国の人口動態のプロセスを，段階的に示したモデルのことを指す。具体的には，出生率と死亡率が共に高い多産多死の段階から，医療水準の向上などにより死亡率が低下する多産少死の段階を経て，経済発展に伴い出生率が低下する少産少死の段階に至るというプロセスを指す。
・ストロー効果
　交通網の整備に伴って，コップの水がストローで吸い上げられるように，下位の地域から大都市へ，人々や物資，企業の支店などが流出する現象のことを指す。この現象では，途中の中継地にも経済効果がほとんどみられないことが大きな特徴である。

【問Ⅲの出題意図】
世界や日本に関する地理的な統計情報を正確に読み取った上で，産業の立地やその特徴について適切に説明できる能力，および地理学に関わる基礎的な情勢や用語を的確に説明できる能力を問うた。

令和９年度広島大学文学部編入学試験　解答又は解答例　出題の意図等

分　野	文化財学

問Ⅰ　文化財学分野を専攻するうえで，知っていなければならない基礎知識を問う。

【解答例】

＊鴨居…かもい：日本の伝統建築において，開口部の上部を構成する横材のこと。多くは引戸や引き違い戸を建て込むための溝が彫られる。

＊台目畳…だいめだたみ（「だいめたたみ」も可）：茶室に使われる畳の一つ。丸目畳の約 3/4 の大きさ。

＊懸魚…げぎょ：建物の妻側において，棟木または桁の端に取り付ける装飾的な繰形のある板。通常は六葉と呼ばれる金属製または木製の栓で止める。

＊長押…なげし：柱を両面から挟み付けて，大釘で打ち留めて固定した横材。その位置によって様々な名称がある。元々は構造材だったが，後に意匠材へと変化した。

＊唐門…からもん（「からかど」も可）：門形式の一つ。構造は棟門に類似し，両妻に唐破風の付いた屋根を設ける。内裏，門跡や方丈前に建つことが多い。

＊虹梁…こうりょう：社寺建築に用いられる化粧を兼ねた梁。様式により，その形状が異なる。

＊支輪…しりん：社寺建築の軒裏において，通し貫または通り肘木と丸桁との間を埋めている部材。部材の形状によって様々な名称がある。

＊面皮柱…めんかわばしら（「めんかわはしら」も可）：四隅に木皮を残した柱。茶室や数寄屋造の建物に使うことが多い。

＊密教法具…みっきょうほうぐ：密教の儀礼に使用する仏具をさす。具体的には金剛盤・金剛杵・金剛鈴・羯磨杵（かつましょ）・橛（けつ）などで，密教が流伝した地域には，同系のものをみることができる。壇を組み，橛（けつ）を立て，その内側でこれらの道具により修法が行われる。

＊正倉院展…しょうそういんてん：東大寺の正倉院で保管された約 9000 件の宝物の一部が，毎年 10 月末～11 月初め奈良国立博物館で出陳される展覧会のこと。昭和 21 年から今年で 80 年を迎える。宝物は現在東西の宝庫に移され，開封の儀の後に曝涼がされる。その時期に合わせ開催がされる。

＊蒔絵…まきえ：漆器に漆で蒔絵筆を使って描いた文様または文字に，それが乾かないうちに上から金や銀などの金属粉を蒔いて定着させる加飾技法。特に日本において発展し，平蒔絵・研出蒔絵・高蒔絵などがあげられる。

＊漆…うるし：ウルシの木から採取された樹液のこと。樹脂塗料・接着剤。木に傷をつけ，その傷口から流れ出る乳白色の樹液を掻く。日本では縄文時代から使用されており，中国・台湾・ベトナム・タイ・ミャンマー等で採れる。精製され漆芸に用いられる。成分のウルシオールによりかぶれるなどのアレルギー反応もある。

＊螺鈿…らでん：貝殻の光る箇所を薄く研磨し，漆器や木地にはめ込み装飾する漆芸の技法をいう。夜光貝（ヤコウガイ）・白蝶貝（シロチョウガイ）・黒蝶貝（クロチョウガイ）等が使用される。唐から技法が奈良時代に伝わり，平安時代に発達する。

＊空海…くうかい：平安時代初期の密教僧。入唐して密教経典・法具等を日本へ持ち帰り，広める。真言宗の宗祖となる。高野山・教王護国寺などで活動し，入定後（死後）に醍醐天皇より「弘法大師」の諡号（しごう）を受ける。能書家で嵯峨天皇・橘逸勢とともに三筆とされる。

＊魚々子…ななこ：金工などに使用される鏨（たがね）の刃先に円形状を設え，それを槌で対象物に打ち込むことで魚の卵のように見える。連続した円形が刻まれる技法。唐から伝播され，奈良時代の正倉院にはこの技法を有した金工品が所蔵される。

＊伝統的工芸品…でんとうてきこうげいひん：昭和 49 年（1974）5 月「伝統的工芸品の振興に関する法律」公布により，経済産業大臣から指定をうけた工芸品のことをさす。日本において日常生活に供され，主要部分が手作業であり，伝統的な技法，原材料を用い，一定地域で製造される。令和 7 年 10 月までに 244 品目ある。

令和９年度広島大学文学部編入学試験　解答又は解答例　出題の意図等

分　野	文化財学

問Ⅱ　本学文化財学分野２年生で学ぶ城郭建築に関する基礎事項が，どれほど正確に理解できているのかを問う。

【解答例】

天守は構造の違いによって望楼型と層塔型の二型式に大別される。望楼型天守は，一重か二重の入母屋造の建物を基部とし，その屋根の上に望楼（物見）を載せた型式である。したがって一重目もしくは二重目の屋根に必ず入母屋破風が存在する。望楼型天守の具体的な事例としては，五重六階・地下一階の姫路城天守，三重三階・地下一階の彦根城天守，四重五階・地下一階の松江城天守などが挙げられる。

その一方，層塔型天守は入母屋造の基部がなく，四方から均等幅を逓減させて各重を積み上げた構造である。したがって層塔型天守には一重目や二重目に入母屋破風が存在せず，この点が望楼型天守との明確な構造的相違点と言える。層塔型天守の具体的な事例としては，三重三階の丸亀城天守，三重三階・地下一階の伊予松山城天守，五重五階・地下一階の名古屋城天守などが挙げられる。

問Ⅲ　文化財学分野における工芸史について，基礎的知識の確認と論理的に文章の構成が可能かを問う。

【解答例】

厳島神社所蔵　国宝　密教法具一具：独鈷杵・三鈷杵・五鈷杵・五鈷鈴・金剛盤

全ての法具が鋳銅製で鍍金が施されており，制作時代は鎌倉時代（13 世紀頃）と考えられている。これらは密教の修法において大壇上に組法具として，修法をおこなう阿闍梨の正面に置かれる。金剛盤上の中央に鈴，その前に五鈷杵，阿闍梨から右方向に三鈷杵，左方向に独鈷杵がおかれる構成となっている。それぞれの意味合いは，杵は諸悪を払い，鈴は諸仏を驚覚・歓喜させる役割を担っている。日本の密教法具のなかでもこの作例の特徴として挙げられるのは，まず，装飾性が豊かである。鈴身には宝相華唐草文，独鈷杵と三鈷杵が肩部と裾部に外周して表現される。また鈴杵に共通して，把部（つかむ箇所）には四面の鬼面を有し，その上下を蓮弁で飾っている。また，鈷部（鈴杵の上部）の切っ先には全て獅噛を有している。全体に隙間なく装飾が施され，精緻な作りであることがみてとれる。

この一具の修法については，鈴身部に胎蔵四仏の種字の表現がされていることから，本鈴を胎蔵大日に見立てたことが推察され，胎蔵法に用いられた可能が考えられる。

令和９年度広島大学文学部編入学試験　解答又は解答例　出題の意図等

分　野	言語学

問Ⅰ

（出題の意図）言語獲得に関する英語の学術的文章を題材として、英文の構造を正確に把握し、その内容を適切な日本語で表現する能力を評価する。特に、複雑な構文や言語学の基本的な専門用語の理解に加え、文章全体の論理的な展開を読み取る力を確認する。

（１）

したがって，言語獲得に関するいかなる理論も説明しなければならない中心的な現象は，次のようなものである。すなわち，文法的発達の明らかな兆候が見られない状態が何か月にもわたって長く続いた後，18 か月頃になると，多語発話が現れ始めるのに伴って突然の急速な発達が起こり，その後の 12 か月間に文法的発達が驚くほど急速に進むのは，いったいなぜなのだろうか。

（２）

子どもの言語発達のパターンに見られるこの均一性と，（いったん急速な発達が始まった後の）速さこそが，言語獲得理論が説明しなければならない中心的な事実である。しかし，それをどのように説明すればよいのだろうか。

（３）

チョムスキーは，第一言語獲得に見られる均一性と速さに対する最も妥当な説明は，言語獲得の過程が，脳内に生物学的に備わった生得的な言語能力（あるいは，コンピューター・ソフトウェアになぞらえて言えば「言語獲得プログラム」）によって決定されると仮定することである，と主張している。この言語能力は，子どもたちが自らの言語経験（すなわち，彼らが受け取る言語音声の入力）に基づいて文法を発達させるための，遺伝的に伝達されたアルゴリズム（すなわち，一連の手続き）を子どもたちに与えるものである。

（４）

チョムスキーが言語獲得の過程をどのように捉えているかは，下の（4）のように図式的に表すことができる（ここでＬは獲得される言語を表す）。

（５）

言語を獲得する子どもは，周囲の人々がその言語を使用しているのを観察する。そして，言語獲得の過程で子どもが耳にするその言語の一連の表現と，それらの表現が使用される文脈とが，その言語についての子どもの言語経験を構成する。

（６）

この経験は子どもの言語能力への入力となり，言語能力は，その経験を，獲得されつつある言語の文法を作り出すような仕方で（無意識に）分析するための手続きを子どもに与える。

（７）

したがって，言語能力への入力は子どもの経験であり，言語能力からの出力は，獲得されつつある言語の文法である。

令和９年度広島大学文学部編入学試験　解答又は解答例　出題の意図等

分　野	言語学

問Ⅱ

（出題の意図）未知の言語データを比較・分析し、そこに見られる文法的規則性を発見する能力を評価する。特に、語彙の対応関係、語順、主語と目的語の関係をデータに基づいて分析し、その結果を論理的に説明する力を確認する。

（１）

lií’：馬（horse）
dzaanéézː ラバ（mule）
ashkii：少年（boy）
at'éédː 少女（girl）

（２）

Navajo では, 提示されたデータにおいて, 動詞は二つの名詞句の後に置かれている。例えば, (a) Lií’ dzaanéézyiztał では,「馬」と「ラバ」に相当する二つの名詞句の後に「蹴る」を表す動詞が置かれている。(c)や(d)でも同様に，二つの名詞句の後に動詞が現れている。したがって，少なくともこれらのデータからは，Navajo では二つの名詞句に動詞が後続する NP-NP-V の語順をとることが分かる。

（３）

(a)と(b)では二つの名詞句 lií’ dzaanéézの順序は同じであるが，動詞の形が異なっている。
(a) yi-ztał：「馬がラバを蹴った」
(b) bi-ztał：「ラバが馬を蹴った」
したがって，主語と目的語の解釈の違いは，名詞句の語順だけではなく，動詞に付く *yi-* と *bi-* の違いによって示されていると考えられる。すなわち，Navajo では動詞上の形式が，二つの名詞句の文法関係を判断する手掛かりとなっている。

（４）

man：swəy̓qəʔ
woman：słeniʔ
bear：sčətxʷən
boy：swíʔqəʔəl
knows：x̣čits
saw：leŋnəs

令和９年度広島大学文学部編入学試験　解答又は解答例　出題の意図等

分　野	言語学

（５）

Lummi の基本語順は VSO（動詞―主語―目的語） であると考えられる。例えば，

x̣čits cə-swəẏqəʔ sə-słeniʔ「男が女を知っている」

では，x̣čits「知っている」が最初にあり，その後に主語「男」，目的語「女」が続いている。また，

x̣čits sə-słeniʔ cə-swəẏqəʔ「女が男を知っている」

では，動詞は同じく文頭にあり，その後の二つの名詞句の順序を入れ替えると，それに対応して主語と目的語の解釈も逆になる。

(c)でも leŋnəs「見た」―「熊」―「男」という順序になっている。したがって，これらのデータから，Lummi では基本的に動詞―主語―目的語（VSO）の語順をとると判断できる。